

育成センターだより

令和7年度
No. 433

長野市少年育成センター
TEL. 228-8547
FAX. 224-0109

子ども・若者育成支援強調月間(11月)
オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン(11月)
麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動(10月～11月)

年度後半の育成活動

毎年毎年最高気温が更新され、異常な季節が日常になってきました。キノコ採りの名人に聞くと、「毎年同じ時期に同じ場所でもキノコが採れたのに、今はそうはいかない」「毎年記録して、季節を見定めていくことが大事」らしい。もう同じことをやっていたのでは成果は得られないということだ。

十月には、長野市近隣に大規模なショッピングモールがオープンしました。長野市からは自転車でもすぐにいける距離にあります。近隣だけでなく全



県、県外からも大勢の人が集まってきています。「人集まる所にトラブル・犯罪の影多し」と気をもむところですよ。さて、これからどうなるでしょうか。事故やトラブルがないことを祈りたい。

育成活動の重点

★ 見えない相手に要注意!!

インターネット、SNS、ゲーム機を通して見えない相手につながりや居場所を求める時期です。注意しましょう。



★ 地域の体験活動に協力しよう。

地域では、子どもたちの体験活動に力を入れています。自然体験、農業収穫体験、伝統行事、お祭りなど世代を超えて一緒にやり遂げよう。



★ 不審電話・不審者の訪問、甘い誘いに要注意!!

巻き込まれない「事前の対策」家庭・地域が意識して共に備えましょう。



「つながるサポート」 「たくさんの皆さんに支えられて」

長野市立西部中学校長 丸山 真 弘

様々な事情を抱えた児童生徒・家庭を、多方面からどのように支援していくか、また近年、不登校となる児童生徒の背景にある対人関係や家庭環境など様々な原因を解消するためにどんな対策をとっていけばよいか等、意見交換をする機会がありました。その情報交換の中で、本年度から長野市教育委員会が始めた不登校の小中学生の自宅を訪問する「アウトリーチ」型の支援についての話題がありました。これは、実際に不登校が長期化した児童生徒の自宅をスタッフが訪ね、その子に合った多様な学びの場につなげ、家庭以外のサポート態勢を構築するためのものです。ここでは、実際に長野市アウトリーチスタッフBさんに支援していただいたことで、着実に前進しているAさんの事例を紹介します。

小学校時より学校に足が向かなかったAさんは、週に1回保護者の送迎で市の教育支援センターに通所していましたが、中学入学後も同様でした。そこで、支援会議を経て、市のSSWの方を通じて、アウトリーチスタッフBさんに支援していただくことになりました。

携し、Aさんに寄り添いながら、様々な角度からアプローチをしてくださいました。そのお陰で、現在Aさんは、少しずつ人間関係の幅を広げることができ、Bさんらと待ち合わせの場所を決めて、自分一人ですバスに乗って教育支援センターに通所することができるようになりました。さらに、年度当初、校内での関わりは、学級担任に限られていましたが、Bさんの支援で人間関係づくりに自信が持てたのか、担任以外の学年の先生とも少しずつ関われるようになり、今では、気が合う先生と約束を交わし、放課後登校できた際は、共通の話題をもとに会話を楽しめるようになりました。

このように、様々な立場の外部機関の皆さんとつながって、学校だけでは対応できなかった支援を行うことができ、少しずつではありますが、着実に前進している子どもたちの姿があります。これからはさらに、子どもたちを中心に据えた「つながるサポート」が様々な場面で機能し、少しでも前進できる子どもたちの姿が一人でも増えていければいいなと思います。





生徒が考案したデザインを使用して記念Tシャツを作り、全校生徒と職員で着用し、運動会を盛り上げました。デザインは松代藩主真田家の裏紋で校章にも使われている「かりがね」です。秋のすみきった大空を渡る

学校紹介

『日暮一たび移れば』

学校少年育成委員
松代中学校 教諭

久保 文夫

松代中学校は、松代海津城の隣にあります。春はクラス毎学活の時間にお城へ行き、お花見をします。満開の桜の木の下で写真撮影もします。また文武学校や松代藩鐘楼は学校のすぐ近くにあり、学区内には城下町の名残がいたる所にあります。本校では一昨年、七十周年記念行事が開催されました。その時には、生徒が作詞し地元の音楽家が作曲した歌二曲を全校で歌いました。また

雁が互いに助け合い、一糸も乱れずに進む姿から、校訓「友愛・秩序・団結」の意味づけをして校章に描かれました。また先輩の作った松代中から見た山なみのデザインは、現在運動着のデザインになり、後輩たちも着用しています。

松代中学校は、地域との結びつきが強い学校です。ボランティア活動が盛んに行われていて、たとえば「中町祇園祭」「七面さん」「真田十萬石まつり」「大室古墳群まつり」「えびす祭」「雛まつり」などの祭のボランティアやその他「長野マラソン」「地域防災活動」「日赤街頭募金」等々多くの生徒が活動に参加しています。また一年生を中心に地域の杏畑で摘果や収穫の作業を行っています。杏栽培のつながりから、愛媛県宇和島市の中学校との交流も行っています。二年生の職場体験学習では、ほとんどの生徒が松代地区の施設、店舗、企業で体験します。さらに年に一日「リスペクトするワーク」感にあふれた松代プログラム（通称リスワークプログラム）が行われます。この日は「エコール・ド・まつしる倶楽部」の皆さんを講師に招いて、体験授業を行います。今年十月に「茶道」「華道」「松代雅楽」「香道」「甲冑着付け」等の十一講座に分かれて実施します。

「日暮一たび移れば千載再来の今なく形神既に離るれば万古再生の我なし」学芸事業堂に悠々たる可けんや」

佐久間象山先生の詩が刻まれた石碑が校門近くにあります。毎日生徒はその横を通って登校します。これからの一日一日を大切に、学業に励んで欲しいと願っています。

学校紹介

『ポプラのようになくましく心ゆたかな裾花の子』

学校少年育成委員
裾花小学校 教諭

中村 しほ

裾花小学校は、豊かな自然と、温かな地域の人々に見守られながら、子どもたちが毎日元気に学び、成長している学校です。校庭からは大きなポプラの木をはじめとする、四季折々の景色が見え、裾花川の美しさを身近に感じられる環境は、児童の豊かな感性を育てる大きな力となっています。

本校では、「自ら学び、共に生きる子ども」を教育目標に掲げています。これは、一人ひとりが主体的に学ぶ意欲を持ち、仲間と協力し合いながら成長していく子どもたちを育てたいという願いが込められています。

学習面においては、基礎的・基本的な知識や技能の定着を大事にしながら、児童が自分で考え、表現する力を育むことを重視しています。タブレット端末などのICT機器を活用し、個人の学習進度に合わせた「自由進度学習」を行った「フリーラーニング学習」として、自分で調べてみたいことを追究する時間を確保したりしています。このような活動を通して、「わかった!」「できた!」と喜びを感じ、さらに、自分から発信する力も付けてきています。自ら学びたいと思ったときの児童の力は素晴らしいと日々感じさせられます。

生活面では、日常のあいさつや生活習慣を大切にしながら、子ども同士の思いやりや協力の心を育てています。朝は、



登校する各所に地域の方がいてくださり、優しい声をかけていただいています。校門で校長先生が立っていると、ニコニコと「おはようございます」とあいさつをし、「今日はこんなことをするんだよ」と話していく子どもたちの姿があります。また、児童会活動を通じて、異年齢交流も盛んです。高学年の子は低学年の子に対して優しくし、高学年に対して低学年は憧れを持つことで、互いに学び合いながら成長しています。こうした人と人との関わりを通して、責任感や自信が生まれていきます。また、今年度は「心の保健室」として、学校に足が向きづらい子、大きな集団の中ではちょっと不安になってしまう子のための居場所である「しなのきルーム」が開設されました。ここでは、特別支援学級とともに自立活動を行っています。まずは少人数の仲間と信頼関係を築き、安心して活動する中で、自分の良さに気づき、自信をつけていく子どもたちの姿がたくさんみられます。「あんなによく笑う子だったんだ」とびっくりさせられます。そして一人ひとりの子どもに寄り添い、安心できる環境を作っていくことの大切さを感じます。

裾花小学校は、自然と地域の方々に見守られながら、子どもたち一人ひとりの可能性を伸ばす学校です。これからも、児童が夢や希望をもち、心豊かに、たくましく成長していけるよう、力をあわせて教育活動に取り組んでいきたいと思えます。

第二地区住民自治協議会の取り組み

「子どもたちが毎日笑顔で過ごせるように」

「私たちが今できること」

第二地区住民自治協議会 青少年健全育成委員会委員長 松田 愛絵

私が青少年健全育成委員長を仰せつかって3年目に入りました。1年目、当時はコロナの流行も収まってきましたが、まだまだいろいろな活動ができない時期でした。コロナ前は、地区の子どもたちを集めてイベントを行ったり、学校や地域、保護者との懇談も盛んに行われていたとお聞きしていました。

以前のような活動ができない状況の中、今できることは何かと考えたときに、各地区の育成会を充実させるために、意見交換会Ⅱ「対話」が大事だと感じました。

「対話」の重要性は、コロナ禍の時、私の娘は小学生でしたが、保護者同士で会う機会がなく、学校での様子や友達のことなどの情報共有ができずにとっても不安でした。少しコロナが落ち着いてきた時、同じ学年の保護者の方たちと、夕方、人が少なくなっている城山公園の噴水のあたりは、子ども

第二地区住民自治協議会
青少年健全育成委員会

を遊ばせながら色々な情報共有し「安心できる場所」でした。そんな経験から、「対話」を大事にしています。

全育成委員会の活動として、年に3回育成会の意見交換会を行うことにしました。会の始めには、まずアイスブレイク（その場を和ませ、参加者間のコミュニケーションを円滑にするための手法）で皆さんが笑顔になり、話しやすい雰囲気になったところで、各地区の課題、悩み、困りごと、良い活動事例などを話します。皆さんお仕事を終えてのお忙しい時間にお集まりいただきますから、おやきやおにぎり、お菓子などを用意して、お子さま連れもOKです。和気あいあいと気楽な会になるよう心がけています。

会の内容は、各地区によって悩みが異なりますので、他の地区の現状を知り、活動内容も参考にしたいなどのご意見や、子どもの数が年々減り続けるため、育成会の存続の危機や、役員のなり手不足、決め方などの課題も多く挙げられます。

コロナ後は、育成会やPTA、その他、地域の活動など随分と減少しました。しかし、今一度活動を精査し、無くすだけではなく子どもたちにとって大事なものは復活させたり、また新たな活動を行ったりすることも大切だと思います。

共働きや核家族などにより、親だけでは子どもを育てていくのが難しく、地域全体で見守って、子どもたちの笑顔のために活動を進めていきたいと思っています。

「学校少年育成委員」

夏休みの巡回指導から

■報告の大半はマナーやルールを守って問題がない状況でしたが、気になる出来事がいくつかありましたので報告させていただきます。

コンビニ店



・子どもだけで、ゲームの課金用と思われるカードを購入しに来る。「家の人は知っていないの」と店から声をかけた。（若槻方面）

・中学校のジャージを着て来店し友達とふざけあって避妊具を買っていく子がいる。（吉田方面）

・中学生が深夜2、3時頃に来店してなかなか帰らないので声がけして警察にも連絡をした。（柳原方面）

交番



・自転車に乗る時はヘルメットをかぶり、並んで走行しないことを学校でしっかりと指導してほしい。（豊野方面）

・中高生が子どもだけでうろうろしている様子が目立ちます。（長野駅前）

ゲーム店、ゲームコーナー

・一部の保護者は買い物に行き子どもだけで遊ばせていることがある。落ちていたメダルを拾って遊んでいくこともあり、店は目を離さぬよう巡回を強化している。（吉田方面）

市内小中高等学校の委員の先生方に、学区内や通学路周辺のお店や公園、駅や繁華街を回っていただきました。

・プリクラ撮影店近くで、化粧する子、制服が乱れた様子の子、階段でたむろする子がいいたので声をかけて、気をつけて帰宅するよう促した。（長野駅前）



スーパー、量販店、ドラッグストア



・高校生ぐらいの子がバッグを前に抱えてチャックを開け、お菓子コーナーにたむろする不審な行動が見られた。声をかけても動じる様子はありません。（安茂里方面）

・エスカレーター上のスペースに座る若者がいる。店内は中高生が多数利用する。（長野駅前）

・中高生かは不明だが、一時期、化粧品コーナーで盗難が多く店内の見回りを強化した。この頃は落ち着いている。（朝陽方面）

運動公園、スポーツ・レクリエーションパーク

・中高生がスケートボードの練習をしていたが、ノヘルだったため、義務づけられているからと指導すると素直に応じた。（三才方面）

改めてお店や施設、交番等から、子どもたちはよく見えてもらっていることがわかりました。学校少年育成委員の先生方暑い中お疲れさまでした。

大型ショッピングモールがオープン

先月、大型ショッピングモールがオープンしました。県内最大級の店舗数とシネマが揃っていてグルメゾーンもあり、ペットと一緒に家族で買い物を楽しめるようになっていきます。長野市内に住む私たちにもたいへん魅力的な場所ができました。



長野駅周辺の中心市街地も、多くの店舗があり、多くの人が集まる場所になっていきます。そのため、子どもたちが集まりやすい所には、学校

少年育成委員、住民自治協議会、PTAの方々や少年育成センターが巡回を行い、子どもたちへの声掛けとともに各店舗にも、見守りや声掛けをお願いしています。また、各店舗では、自主規制などを設けて、安全に楽しく過ごせるようにしています。

隣接する長野市外の大型ショッピングモールですが、今後どのようにしたら子どもたちの安全・安心を守っていくのか、学校や地域などではどんなことができるのか、早急に検討を進めていく必要があるのではないかと思います。

巡回指導から

○深夜（市条例では23時～4時）に未成年者がふらふらしていると警察から声を掛けられます。意外と多い深夜徘徊の補導です。



○ゲームセンターの16歳未満の立入り制限は午後6時まで。保護者が同伴すると午後10時まで。18歳未満は午後10時まで。午後10時が最終です。（店の自主規制）



○長野市の多くのカラオケボックスでは、会員登録が必要で、16歳未満の立入り制限は午後6時まで。（店の自主規制）20歳未満は、たばこ・酒は禁止です。



○自転車盗難相次ぐ



長野駅前の駐輪場を巡回すると鍵がかかっていない、ヘルメットが置きっぱなしの自転車が目につきます。自転車盗難に気を付けましょう。

一日少年育成委員終了

今年度も、長野市内小中高校の職員やPTAの皆さんによる一日少年育成委員が無事終了しました。毎年、約20校近くの学校に参加をいただいています。一日少年育成委員は、いったい何をしているのか参加された方の感想をお読みください。

○青少年を取巻く有害環境や問題行動の実態をわずかながら感じることができました。実際に長野駅周辺を巡回してみても、まだ知らないことだらけだったと感じました。思ったより中学生の出入りが多いこと、色々なお店が増えていること、多様な遊び場があること。きっと色々な要因が重なり、トラブルが生まれることもあるのだらうと思いました。そういう場所や可能性、実態を直に見て感じられて非常に勉強になりました。

○今回、少年育成委員のこと、青少年保護育成条例のことを初めて知りました。巡回指導では、街中のどのような場所如若者が集まりやすいのかということを学びました。私自身が普段足を踏み入れることがない場所も多くあり、中

学生のみで、ゲームセンターや買い物にいくことも現在では珍しくないのだと少し心配になりました。



地域からの要請 出前講座

ネットやSNSに起因する犯罪被害にあわないように、地域からの出前講座の要請が増えていきます。今更聞けないことを、もう一度原点にかえてスマホSNSの安全な使い方について説明します。



★困ったら…困る前に★ 『青少年の相談』は

少年育成センターへ

電話 228-8588

月～金曜日 8時30分～17時15分

※匿名でけっこうです

編集後記

最近、長野駅前を巡回していると、多くの若者の姿が見られるようになりました。声をかけると「中学生」のようです。以前中学生は、あまり見かけませんでした。何か少しずつ変わりはじめています。くれぐれも事故やトラブルにあわないようにしたいものです。